

小中一貫教育制度の 取組について

大牟田市教育委員会 学校教育課
令和4年10月26日（水）

目指すもの・新たな取組

小中一貫教育とは

小中学校の教職員が、教育目標と目指す児童生徒像を共有し、義務教育9年間を見通した教育課程を編成し、系統的・連続的な指導を目指す教育

本市が小中一貫教育で目指すもの

- 1 児童生徒の学力向上や「中一ギャップ」・不登校の解消
- 2 教職員の指導力の向上
- 3 「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」を推進

実効性を高める新たな取組み

- 1 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を設置
- 2 地域学校協働活動推進員を配置
- 3 スクールソーシャルワーカーを配置

未来を拓く人をはぐくむまちづくりの実現

導入形態

小中一貫教育制度の導入形態

原則、小学校・中学校併設型

既存の小学校及び中学校の施設と基本的な枠組みを残し義務教育9年間を見通した系統性・連続性のある教育課程を編成・実施

※赤い枠内が本市が導入する小中一貫教育制度の形態

	小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
	小学校・中学校併設型	小学校・中学校連携型
設置者	同一の設置者	異なる設置者
修業年限	小学校6年、中学校3年	9年 (前期課程6年+後期課程3年)
組織・運営	それぞれの学校に校長、教職員組織 小学校と中学校における教育を一貫して施すためにふさわしい運営の仕組みを整備する	一人の校長、一つの教職員組織
免許	所属する学校の免許状を保有していること	原則小学校・中学校の免許状を併有
教育課程	・9年間の教育目標を設定 ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成	

実施内容

小中一貫教育の実施内容

- 1 教育目標と目指す児童生徒像の共通化
- 2 各中学校区ごとの実施計画の作成
- 3 **共通の教育目標のもと義務教育9年間を見通した系統性・連続性のある教育課程の推進**

小学校段階と中学校段階の間に、円滑な移行のための期間を意図的に設けることによる「中1ギャップ」の緩和や上
学年への進級や中学校卒業時点を想定した取組を強化できるように学年段階の区切りを設定。

【例】校種	小学校						中学校		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
区分	前期				中期		後期		
指導目標(例)	【基礎・基本期】 ○基本的な生活習慣の確立を図る ○学習習慣の確立を図る ○基礎学力、基礎体力の定着を図る				【習熟・接続期】 ○中学校への円滑な接続を図る ○コミュニケーション能力の育成を図る ○学力の伸長を図る		【充実・発展期】 ○自ら課題を見つけ、解決する力を育成する ○社会性の育成を図る ○主体的に進路を選択する能力を育成する		

- 4 **児童生徒の交流(「ようこそ！先輩」:動画)**
- 5 **組織的運営の充実**
- 6 **教職員の連携**
- 7 **家庭・地域との連携と協働の推進**

宮原中学校区 (M-HAT) の取組 (モデル事業)

小中一貫教育の実施内容

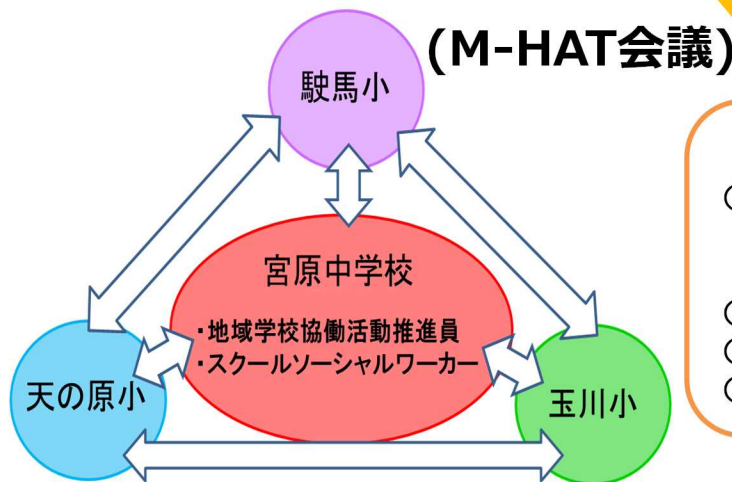


〔学びをつなぐ〕

- 9年間を見通した系統性・連続性のある教育課程
- 学習内容・指導方法の共通理解
- 家庭学習の習慣化
- 学習や生活の手引き等の作成等

〔教職員をつなぐ〕

- 目指す子供像の共有
- 児童生徒理解に向けた情報共有
- 相互乗り入れ授業の実施
- 合同研修会等
(学習指導、生徒指導、道徳・特活)



〔子供たちをつなぐ〕

- 交流行事の実施
(遠足、体育祭、音楽発表会、学習発表会等)
- 部活動等でのスポーツ交流
- 異学年交流による心の成長
- 児童生徒会の交流等

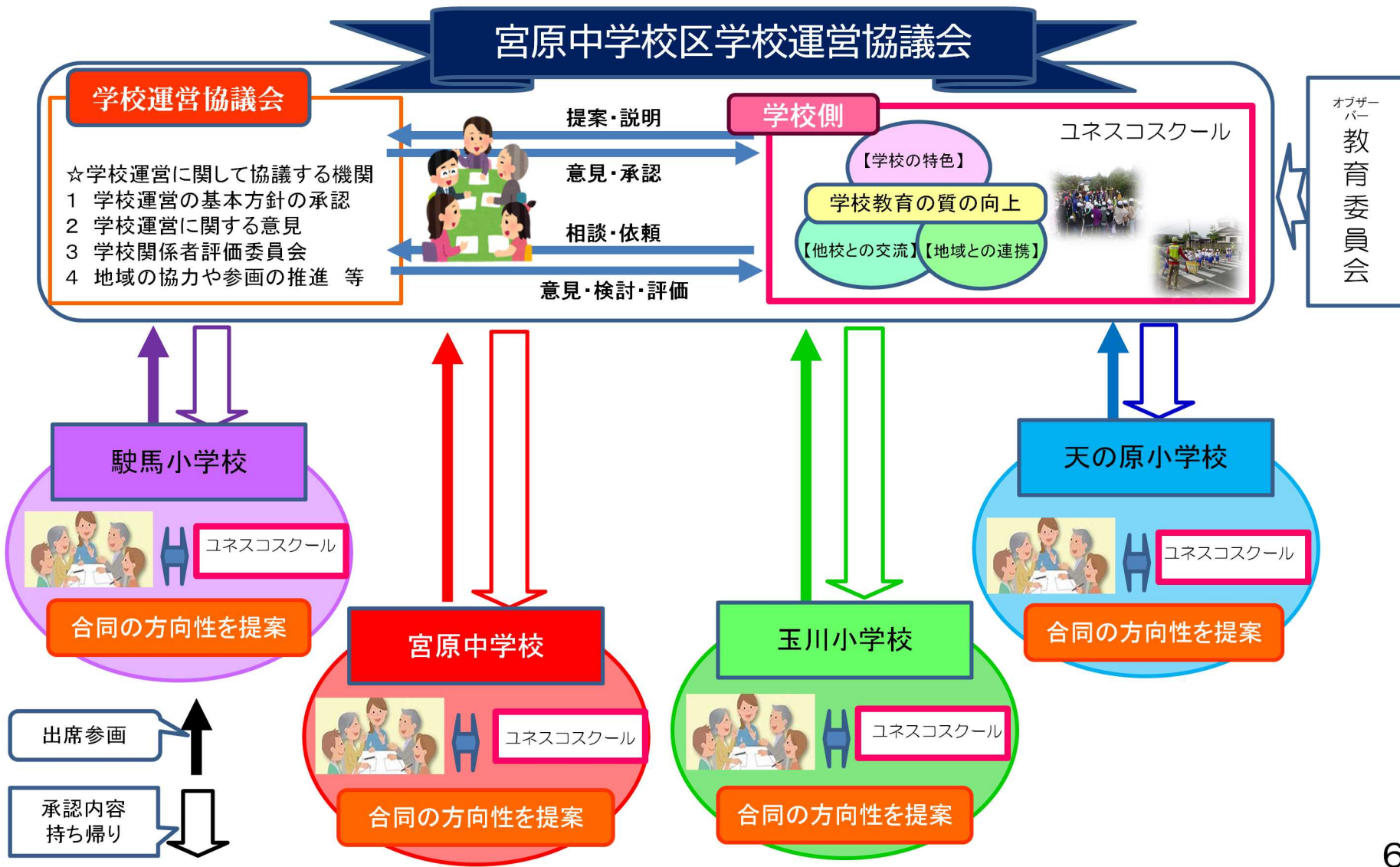
〔家庭・地域をつなぐ〕

- 学校運営協議会 (コミュニティ・スクール) の設置
- 地域学校協働活動推進員の配置
- PTAの連携、地域行事への参加
- SSWによる児童生徒・家庭への支援
- 地域ボランティアの活用
- 小中一貫教育の情報発信 (学校便り・広報誌等) 等



学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置

地域とともにある学校づくり



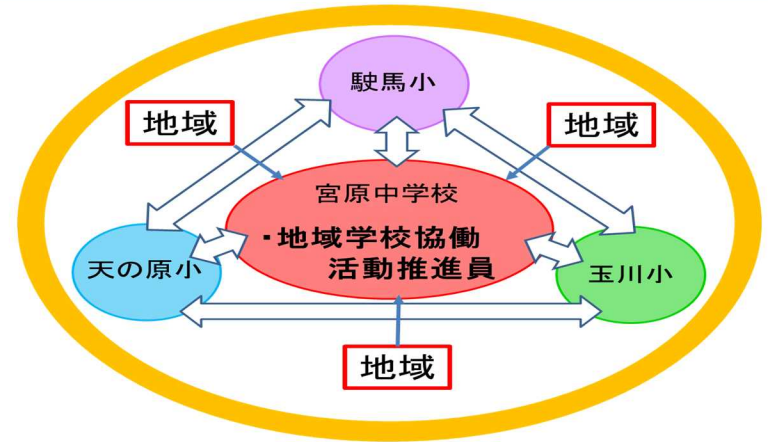
常駐の地域学校協働活動推進員を配置

地域学校協働活動推進員

学校と地域をつなぐコーディネーター

学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を設置するとともに、**常駐の地域学校協働活動推進員**を配置し、学校・家庭・地域が協働して、学校経営に取り組む。

宮原中学校:松尾 地域学校協働活動推進員



- 学びをつなぐ
- 子供たちをつなぐ
- 教職員をつなぐ
- 家庭・地域をつなぐ

成果

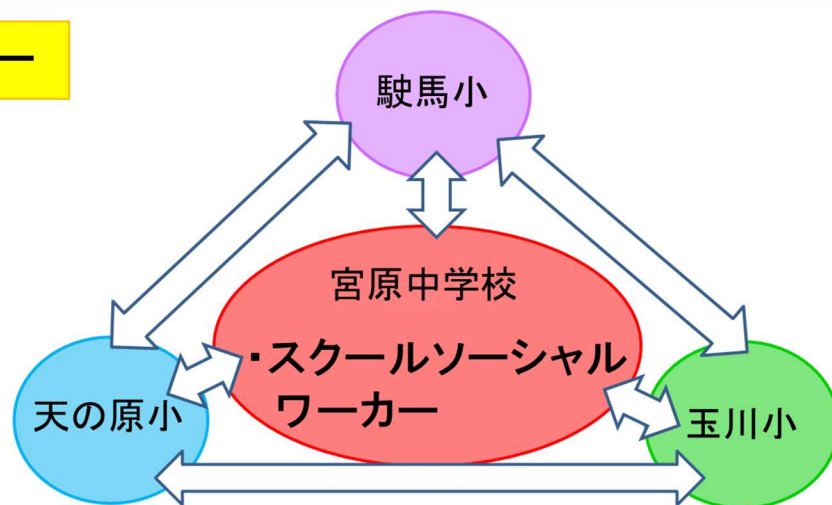
- 9年間を見通した教育課程編成
(総合的な学習:M-HATふるさと学習)
- 各小学校区における地域と学校の協働体制の仕組みづくり

常駐のスクールソーシャルワーカーを配置

スクールソーシャルワーカー 社会福祉等の専門的な知識や技術を有する者

中学校校区に、**常駐のスクールソーシャルワーカー**を配置し、課題を抱えた児童生徒や家庭に対して各校が連携して継続的に支援に当たる。

宮原中学校:松本 スクールソーシャルワーカー



- 児童生徒の実態の共有化
- 家庭内の状況を共有化
- 教職員との連携強化

成果

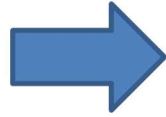
■ 宮原中学校における、
不登校生徒の出現率の低下₈

小中学校の教職員の連携(M-HAT会議)

合同研修会

月1回程度M-HAT研修会の実施

- 1 教務担当部会
- 2 学力向上部会
- 3 生徒指導部会
- 4 交流推進部会



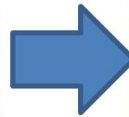
義務教育9年間を見通した、系統性・連続性を重視した教育課程の編成・実施に向けた、具体的な取組の協議



相互の授業参観

学期1回程度 授業参観の実施

9月15日(木) 宮原中学校において授業参観



M-HAT会議

- ・ 相互乗り入れ授業に向けての検討
- ・ 子供の姿を通して、学習指導・生徒指導の改善



小中一貫教育 スケジュール

市内中学校区制度導入までのスケジュール

制度導入にあたっては、中規模再編校、大規模再編校それぞれ1校において、制度導入の2年前よりモデル校として検証を進め、その後、検証結果を元に他校での導入を進めていく。

規模	校名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
中規模再編校	宮原中学校 (駿馬小、天の原小、玉川小)		モデル事業 (実施計画作成)	制度導入				
	白光中学校 (明治小、手鎌小)					実施計画作成		制度導入
	松原中学校 (大正小、中友小)			実施計画作成		制度導入		
大規模再編校	宅峰中学校 (みなと小、天領小、大牟田中央小)			モデル事業 (実施計画作成)		制度導入		
	歴木中学校 (平原小、高取小、羽山台小、白川小、三池小)					実施計画作成		制度導入
	橘中学校 (吉野小、上内小、倉永小、銀水小)					実施計画作成		制度導入

※田隈中学校は、令和7年に歴木中学校と橘中学校に、甘木中学校は、令和9年に白光中学校と橘中学校にそれぞれ再編

【小学校名は令和3年10月現在で表記】

小中交流事業「ようこそ！先輩」

交流活動の目的と育てたい力

異年齢の集団による活動を通して、以下のような資質や能力の涵養を図り、小学校と中学校との円滑の接続を図る。

- 集団の中での役割や自覚と協力する態度の育成
- よりよい行動をしようとする自主的・実践的な態度の育成
- 支持的な風土や自尊感情を感得できる集団の育成

- | | | | |
|---|-------|---|-------------|
| 1 | 日時 | 5月13日（金） | 14：00～15：30 |
| 2 | 対象学年 | 小学校6年生 | と 中学校1年生 |
| 3 | 内容 | 中学生が出身小学校へ行き、活動を行う。 | |
| 4 | 具体的活動 | ①グループトーク 【中学生が進行】
②レクリエーション 【小学生が進行】 | |

未来の大牟田を創る子供たちのために……



ご清聴ありがとうございました。

